

**一般演題2-6****間質性膀胱炎に対する高気圧酸素治療有効例の長期治療成績**

田中智章 南 彰紀 森本和也 大年太陽  
鞍作克之 仲谷達也

大阪市立大学大学院医学研究科 泌尿器病態学

**【目的】**

間質性膀胱炎 (Interstitial cystitis:IC) 症例に対して、これまでに我々の施設では高気圧酸素治療 (Hyperbaric oxygen therapy: HBOT) を施行し、その治療成績および有効性について報告してきた。(Tanaka T, et al. BMC Urol. 2011; 11:11) これまでに海外においても比較的良好な治療成績が報告されているが、治療後長期的な経過報告はほとんどなされていない。そこで、HBOTを施行し2年以上経過フォローされた奏効例について臨床経過を検討した。

**【対象と方法】**

2004年12月から2014年6月までに、HBOT施行後効果ありと判定され長期followされたIC患者8名を対象とした。内視鏡所見は、全例潰瘍型。年齢57～75歳 (中央値69歳)、女性7名、男性1名。2気圧100%酸素1時間吸入を1回として、総HBOT施行回数は10～59回 (中央値15.5回)。HBOT施行までの罹患期間は1.2～5.5年 (中央値3.2年)、HBOT施行までの水圧拡張術施行回数は1～8回 (中央値2.5回)。最終HBOT施行後の観察期間中央値48ヶ月 (24～101ヶ月)であった。

**【結果】**

HBOT10回または20回施行を1コースとして、HBOT単回施行は4名、複数回施行は4名、

HBOT複数回施行例の最終施行時までの症状緩解期間は平均8.4ヶ月 (5～13ヶ月)であった。HBOT施行後、追加治療として水圧拡張術を施行された症例はなく、全例においてNSAIDS, 弱オピオイドの使用は回避できていた。副作用として、耳管閉塞症1例、滲出性中耳炎1例を認めた。疼痛コントロール後にも、蓄尿障害の遷延 (3例)、収縮力低下随伴性排尿筋反射 (DHIC) (1例)を呈した場合があった。

**【結語】**

HBOTは潰瘍型ICに対しては有効な治療手段の一つであり、低侵襲であり複数回施行することで症状増悪例に対しても対処できる方法と考えられる。